

# セボネ

セトガヤ

ボランティア

ネットワーク



SETAGAYA VOLUNTEER NETWORK

世田谷発！ ボランティア生活発見マガジン  
<https://www.otagaisama.or.jp/>

2021.3 No.203

今月のピックアップ

特集●

## 東日本大震災から 10 年 ～せたがや災害ボランティアセンターの歩み～

### ●東日本大震災関連「セボネ」アーカイブ



イラストレーション●齊藤 信三

元プレーパークせたがやのプレーワーカー。2012年4月から同団体の被災地支援員として仙台の遊び場づくりを行う団体に出向。現在は現地団体職員として遊び場づくりを継続している。

●わたしの世田谷

日本での子どもの自由な遊び場づくりが始まった場所。世田谷でのプレーワーカーとしての日々は現在の私の背骨。東北の地でもスピリットをつないでいきます。

## ●特集

# 東日本大震災から 10 年 ～せたがや災害ボランティアセンターの歩み～

地震被害、津波被害そして原子力事故による被害という三重苦に見舞われた東日本大震災。それから10年の歳月を過ごした被災地、そして私たち。世田谷ボランティア協会が東日本大震災でどんな活動をし、何を学び、どのようなつながりを得て今に至っているのかを振り返ってみます。



## すばやく初動開始

世田谷ボランティア協会は、東日本大震災の発生当日に災害ボランティア本部を立ち上げ、翌日には、被災地に派遣する専門ボランティアの募集とボランティア派遣のための募金活動を開始しました。

専門ボランティアの募集・登録を開始した団体は他になかったらしく、登録者数はたちまち1000名近くとなり、その職種も医療、介護、保健、保育、語学、心のケア、マツサージ、建築、理美容など幅広い領域に及びました。少数ながら、都内や関東地区に限らず全国各地から、そして国外からも登録者がありました。被災地の受入れ状況を待たず、直ちに専門ボランティアの登録受けを開始したわけですが、これが協会の被災地支援活動の大きな原動力となりました。

## 避難所への

## 専門ボランティア派遣

登録開始から4日目には、福島県内の青少年自然の家から看護師、介護士の派遣要請がありました。集団避難中の介護施設や自主避難家族の一時受入れを始めたものの、医療・介護の人手が足りず困っているとのことでした。早速、登録者に呼び掛けて派遣説明会を行い、避難所内に2〜3泊して活動する看護師や介護士4〜5名を8回にわたって派遣しました。

青少年自然の家に数日遅れて、いわき市に避難中の福島県楡葉町役場からも、医療・介護の専門ボランティアを派遣してほしいとの要請がありました。同町の町民が会津美里町の8カ所の避難所に分散避難していましたが、3名の保健師しかおらず対応が限界に達しているというSOSでした。そこで、看護師、介護士、ヘルパー、理学療法士などの派遣を開始し、

避難所が閉鎖されるまで延べ87人の専門ボランティアが活動を継続しました。

会津に向かったボランティアは、電車を乗り継ぎ、あるいは夜行バスを利用して現地入りをして、各避難所に分散して2〜3日泊込みの活動をしました。体調不良者を見逃さないという気構えで避難所での見守り続け、体調不良を訴えた人や体温や血圧の測定



手前はマッサージ、奥では子どものヘアカットをする専門ボランティアの皆さん

をした人については個人票を作って記録し、避難所に医療チームが巡回してきたときに個人票をもとに情報伝達をして、避難生活者の健康管理に貢献しました。夜間の急病人を町職員が病院に搬送する際に同行看護をしたケースもあります。

福島県田村市の知的障害者施設が千葉県鴨川市の青年の家に集団避難したものの、一緒に避難できなかった看護師職員もいるため、看護師不足で困っているという支援要請もありました。ここにも、半年間にわたり延べ44名の看護師ボランティアを派遣しました。

### 様々な現場からの

#### 専門ボランティアへのニーズ

協会のこのような専門ボランティア派遣活動が被災各地に伝わり、特色のある派遣要請を受けることにもなりました。宮城県内からは、自衛隊が設置した仮設風呂

で入浴介助をするヘルパー、災害ボランティアセンターでボランティアに安全衛生の指導をする看護師、要介護者を受け入れる福祉避難所の看護師・介護士・ヘルパー、避難所でヘアカットやマッサージをする専門ボランティアなどの派遣要請があり、一定期間継続してボランティアを派遣しました。避難所の実態調査を進める地元NPOの団体からは、専門的な視点から問題を把握できるボランティアの派遣を要請され、看護師、社会福祉士、理学療法士を調査活動支援のために派遣しました。

### ボランティアバスの運行による

#### 一般ボランティア派遣

発災から3か月ほど経って、被災各県で県外からの一般ボランティアの受入れが本格化しましたので、世田谷ボランティア協会でも2011年7月から2012年

4月まで、岩手県、宮城県に向けて車中1泊現地1泊のボランティアバスを10回運行しました。この活動にも、延べ300名ほどの一般ボランティアが参加し、家屋や畑からの泥だし、がれきや漂着物の撤去などを行いました。

### 川内村でのボランティア活動

川内村での活動は、ボランティアバスの活動がひと段落ついた2012年暮れから始めて、現在も続けています。川内村は、震災1年後には帰村が可能となりましたが、若者や子供たちの帰村はなかなか進んでいません。協会職員も同行して10名前後の一般ボランティアが厳冬期を除き月1回1泊で訪問して、地域の共同作業やお祭り、川内マラソンなどの手伝いをし、夜は楽しく歓談して交流を深めています。

### コーディネーターの役割を重視

世田谷ボランティア協会による東日本震災での専門ボランティア派遣活動の特色は、協会が積極的にコーディネーターを務めたことです。現地は混乱の中にあつてボランティア受入れ体制が整いません。ボランティアを送り出す側の協会が、現地の避難所運営者（町役場など）と連絡を取り合いながら、ボランティアの移動手段の手配、現地での活動場所の割振り、活動状況の報告を受けての指示などを協会のボランティア本部で行いました。また、ボランティアリーダーからの日報によって現地の状況を把握するとともに、協会役員や現地を経験した専門ボランティアが何回か現地訪問をして避難所を巡回し、ボランティアの活動状況、生活状況を確認しました。

ボランティアバスの場合、現地のボランティアセンターによる受入態勢ができていましたので、

協会は送出し側としてのコーディネーターをしました。初回だけは協会関係者が団長として同行しましたが、その後は参加ボランティアの中の経験者数名がその都度リーダーとなり、コーディネーターの役割を完璧に果たしました。また、ボランティアバスには看護師ボランティアが少なくとも1名同行して、健康管理を担当しました。

### 東日本震災での

### 活動から学んだこと

東日本震災での活動経験はすべて、その後のせたがや災害ボランティアセンターの活動の中に活かされています。2014年10月にまとめた「避難所における困りごと事例と解決のためのヒント集」も、会津美里町での避難所支援の経験を中心にまとめ上げたものです。

また、私たちはボランティア活動にはコーディネーターが不可欠



川内村の旧小学校の解体にともなう、  
植栽の植え替えのお手伝い

であり、しっかりとコーディネートすることによって、ボランティア活動が充実したものになることを、身をもって体験しました。それと同時に、仮に世田谷が大震災などに見舞われた場合、活動対象が広大過ぎて、外部のボランティア団体がコーディネートすることは不可能ですから、地元の私たちがコーディネートする、それにはコーディネーターは被災地域の中に育てることがもつとも望ましいという教訓を再認識しました。協

会では、そのような思いから、「世田谷方式」と呼んでいるボランティア受入れ体制を提唱したのです。

ボランティアバスの経験者は、その経験がコーディネーターとしての活動に大いに役立つことを実証するとともに、その後、多数のメンバーが協会のボランティア派遣活動やせたがや災害ボランティアセンターの日常活動に参加しています。

### 被災地とのつながり

被災地とのつながりは、私たちにとつてもありがたいことです。協会は毎年世田谷区との共催で防災シンポジウムを開催しています。が、一昨年度は、檜葉町の避難所運営責任者であった宇佐美雅夫さん、そして昨年度は、檜葉町の保健師として避難所の保健衛生問題を担った玉根幸恵さんに講師として参加していただきました。

冒頭に「三重苦」と言いましたが、実際の被害は、人により家庭により地域により、さらに幾重にも及びます。それぞれが仕事、進学、就職、親子、夫婦、家族の介護、健康、資産など、つまりは日常生活のすべての面で被害を受けているからです。それを一つずつ解決しなければなりません。しかし、被災した一人ひとりが目指すべきゴールを思い描くことができません。原動力事故の被災地では、以前のよき生活を取り戻すことが難しい中で、今も自分のゴールを模索している人が少なくないようです。震災を通じて教訓とつながりを得ることができた私たちには、今何ができるのでしようか。せめて、時々会って言葉を交わし合い、なるべく同じ目線で、一緒に思いをめぐらし続けていきたいと思えます。

(世田谷ボランティア協会

理事長 横山 康博)

2011年3月11日の東日本大震災以降、「セボネ」も被災地へのボランティア活動の報告が続きました。特集記事でも、現地でのボランティア活動、せたがや災害ボランティアセンターの活動、大震災に備える学びなどが取り上げられ、とくに「キラリ世田谷人」では、ボランティア活動を実地で行った区民を紹介することが多くなりました。セボネの誌面から、この10年を振り返ってみたいと思います。(まとめ:編集委員 星野 弥生)

## 【せたがや災害ボランティアセンターの活動報告】

- 2011. 4 「東北地方太平洋沖地震」  
支援ボランティア活動 - 世田谷からの専門ボランティア派遣活動について
- 2011. 5 東日本大震災「専門ボランティア活動」報告を開催しました
- 2011. 6 「世田谷災害ボランティアセンター」  
これまでの専門ボランティア活動先報告
- 2011. 7 「専門ボランティア」現地の様子
- 2011. 8 「東日本災害ボランティア応援活動」の報告
- 2012. 1 10,11月のボランティアバスと会津での子どもたちの遊びの支援報告
- 2012. 2 第8回復興支援ボランティア 宮城県山元町
- 2012. 4 山元町復興活動
- 2012. 5 山元町復興支援活動
- 2012. 6 宮城県七ヶ浜町復興支援活動

## 【特集】

- 2011. 5 「せたまち」プロジェクトの試み - 災害時帰宅困難者のための心得
- 2011. 8 「こどもたちの未来に向けて、私たちのできること」田中優さん（環境活動家）のお話
- 2011. 9 「世田谷から「ボランティア応援バス」が向かった」陸前高田にボラバス
- 2012. 1 「神戸の経験が石巻に生きる」  
3.11を映像で記憶し、コミュニティの再生のプロセスを共有する
- 2012. 2 「気仙沼 あそびーばー」プレーリーダーと気仙沼の子どもたち
- 2012. 3 野々島の話 - 新藤由美さんの宮城県塩竈市での10ヶ月のボランティア
- 2012. 5 「福島の子もたちとともに・世田谷の会」による、ふくしまっ子リフレッシュ in 世田谷  
福島の子もたちに世田谷で外遊びを提供する保養プロジェクトが始動
- 2012. 7 ボランティアバスに乗って - 被災地に行くボランティアに訊く
- 2013. 1 3.11を生きて～石巻・門脇小・人びと・ことば～（青池憲司監督）を世田谷で上映
- 2013. 3 災害時のボランティア派遣と被災各地の“今” - 被災地のみなさんの声を聴く
- 2014. 1 進化する防災訓練 - より実践的に、より親しみやすく
- 2014. 4 伊豆大島、フィリピンの災害支援 - ピースボート災害ボランティアセンターに聞く
- 2015. 1 都市型災害に学び、次なる災害にそなえる - 原昭夫さん、阪神の経験を陸前高田に活かす
- 2016. 3 せたがや災害ボランティアセンターのこれまでのこれから - 発足して11年目の今を語る
- 2017. 3 紙の建築・行動する - 建築家、坂茂さんの広がる災害支援
- 2017. 10 いつかくる、その時のために - 「災害ボランティア」をつなぐしくみ
- 2018. 10 災害ボランティア - 困ったときは「おたがいさま」
- 2019. 10 いま考えたい - 災害への備え～できるときにできることを

## 【まちの市民力】

2012. 9 世田谷こども守る会 - 3.11 デビューのおかあさんたちの会。放射線測定なども  
 2012. 10 トランジション世田谷 茶沢会 - 持続可能社会への移行をめざして  
 2013. 9 ふくしまオルガン堂 - 福島への農産物・特産物の販売とオーガニック料理  
 2014. 4 S.S.TASQ ～山元町との関わりを続ける  
 2019. 5 ふっくら布ぞうりの会  
 大震災の支援活動から生まれた布ぞうりを世田谷での人のつながりに活かす

## 【キラリ世田谷人】

2011. 8 井口孝男さん - チェーンソーをもって唐桑町へ  
 2011. 9 柳沼モン治さん - 気仙沼、亶理町で瓦礫撤去など  
 2011. 10 青柳潔さん - ボラバスで毎回ボランティア  
 2012. 2 田辺裕美さん - 看護師として専門ボランティア  
 2012. 4 松林要樹さん - ドキュメンタリー映画「相馬看花」を南相馬で撮る  
 2012. 7 菊池顕太郎さん - 防犯・防災グッズの専門家  
 2012. 10 宮崎猛志さん - IVUSA(国際ボランティア学生協会) で被災地支援。  
 2013. 3 かん沢沙織さん - 福島から世田谷へ避難  
 2013. 11 小沼真喜子さん - ボラバスで被災地に通うエステシャン  
 2013. 4 相星素子さん - 「ふくしまっリフレッシュ in 世田谷」の準備に奔走  
 2014. 6 松下泰樹さん - 石巻に何度も足を運ぶ若いボランティア  
 2015. 8 上田幹郎さん - 「災害ボランティアコーディネータ養成講座」に参加し、ボラバスで陸前高田に行きボランティア  
 2016. 5 白崎映美さん - 東北6県を一歩を立ち上げ、「東北にいいこと来い」とうたう『上々颱風』の歌姫  
 2016. 7 庄野真代さん - 被災地に楽器と音楽を届ける  
 2016. 10 大谷尚子さん - 宮城の養護教員と繋がり、石巻支援  
 2016. 11 相沢祐司さん - ボラバスで 10 回以上通う会社員  
 2016. 12 大原のみ子さん - 石巻・関上地区などに物資支援  
 2019. 2 天野寛子さん - 被災地の生活を刺繍に込めて世田谷美術館で刺繍展  
 2019. 5 幸田真希さん・郁子さん - 人形劇を被災地に届ける



## ご相談ください

### 個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをおつなぎする橋渡しをしています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、人と会ったり、集まったりすることが難しい状況ではありますが、困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決できる

### 個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障がいや学習障がいの傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生〜高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアさんをお探しして紹介しています。

のかわからないという方は、お電話でご相談ください。

電話でお話ししながら、どんな方法がありそうか、一緒に考えます。

●問合せ/世田谷ボランティアセンター  
TEL 5712・5101

現在は、新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインでの学習支援にも取り組んでいます。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重してやっていきます。お気軽にご相談ください。

●問合せ/世田谷ボランティアセンター 担当 高居・青木  
TEL 5712・5101  
takai@otagaisama.or.jp

## ボランティア求む

### 高校生の登校を付き添ってくださる方を募集します

2021年4月から高校生になる女子の登校の付き添いをしてくださる女性を募集します。午前7時20分ごろ、梅丘2丁目のご自宅に迎えに来ていただき、世田谷線世田谷駅から電車に乗り三軒茶屋駅を降りて、池尻1丁目にある学校までの通学サポートをお願いします。歌が好きで、心優しい女の子です。

- 日時/水、木、金のうち1日でも可
- 場所/自宅から学校(所要時間45分〜60分)
- 条件/女性の方、世田谷線の交通費は負担します
- 問合せ/梅丘ボランティアセンター 担当 中里・石川  
TEL 3420・2520  
umebora@otagaisama.or.jp

### 登校付き添いスタッフ募集

4月から小学校5年生になる男の子の登校に付き添ってくださる方を探しています。男の子は、朝起きて気持ちを整えてから、学校へ行ける日は少し遅い時間から登校します。今はお母さんが付き添っていますが、お母さんは4月から資格取得の勉強を始めるため、付き添いができません。本格的に付き添いをお願いしたいのは4月からですが、その前に、お互いに慣れるためにも、少しずつでも付き添いを開始していただけたら良いかなと思っています。子ども好

- きで、ゆったりと接してくださる方をお願いしたいです。詳細はお問合せください。
- 日時/月〜金 おおむね9時〜10時に自宅を出発(週1回〜可)
- 場所/自宅から小学校まで(徒歩5分)
- 交通/用賀駅徒歩5分
- 条件/交通費1回500円
- 問合せ/玉川ボランティアセンター  
TEL 3707・3528  
tanaborae@otagaisama.or.jp

## 東 コミ捨てをして下さる方募集

一人暮らしの高齢女性の方が、足腰の具合が悪く、可燃ごみを抱えて階段を降り、ごみ集積所までゴミ捨てに行くことが難しくなっています。月曜と木曜に家の前に置いてあるごみを、ごみ集積所まで代わりに捨てて下さる方を探しています。どちらかの曜日だけでも助かります。詳しくはお問合せください。

- 日時/毎週月・木曜日7時〜7時半までの間で
- 場所/池尻2丁目のご自宅前からごみ集積所まで
- 交通/池尻大橋駅7分
- 条件/できれば女性
- 問合せ/世田谷ボランティアセンター 担当 高居
- TEL 5712・5101  
takai@otagaisama.or.jp

## 有償スタッフ募集

### 東小京 子どもの遊び環境を豊かにする プレーパークせたがや プレーワーカー募集

『自分の責任で自由に遊ぶ』をモットーにした子どもたちの冒険遊び場「プレーパーク」で、子どもの遊びを活性化させ、子どもの育つ力に貢献する事ができる職業です。

子どもが屋外で思い切り遊べる場をつくる仕事です。子どもの視点に立った遊び場を、地域住民と一緒に運営しながら、地域コミュニティの一端も担う、新しいタイプの仕事です。子ども関係の仕事の経験の有無は問いません。勤務日数・給与等雇用条件 応募方

- 法などはホームページをご覧ください。
- 日時/2022年4月1日〜2022年3月31日
  - 場所/区内4つのプレーパーク
  - 交通/小田急線・京王線・田園都市線・東横線など
  - 問合せ/認定NPO法人プレーパークせたがや プレーパーク事業事務局 担当 竹中
  - TEL 3414・4175  
saiyou@playpark.jp  
http://playpark.jp/recruit

## 東 撮影スタッフ募集

小さなお子さんとお母さん対象のオンライン音楽YouTubeライブ配信事業に関して、ビデオスイッチングによる動画のコントロールなど、1丁周りの簡単な操作をお願いできる方を募集いたします。詳細はお問い合わせください。

- 日時/①月1〜2回(半年間) 9時〜12時(オンライン配信事業)
- ②月1〜2回(1年間) 13時〜18時の間の1〜2時間(記録写)

- 真等の撮影業務)
- 場所/当団体上馬5丁目音楽室
  - 交通/駒沢大学駅徒歩12分 松陰神社前駅徒歩7分
  - 条件/時給1020円+交通費支給。YouTubeなど動画配信の経験がある方
  - 問合せ/NPO法人心のおしやべり音楽工房 担当 中井
  - TEL 3418・6612  
info@kokoratakmusic.or.jp  
https://kokoratakmusic.or.jp/

## 東 小1児童の学校生活全般を サポートして下さる方募集

用賀駅周辺の小学校に4月から通う新小学1年生の男の子が、学校生活全般をサポートを必要としています。男の子は、脊髄性筋萎縮症により電動車椅子で生活しており、体は不自由ですが文字を書くことや食事は自分でできます。

お願いしたいサポートは、主に学校内での移動時に車椅子介助、給食時の見守り、トイレの介助、授業中の見守りの予定ですが、入学後必要に応じてお願いするサポートが増えることも考えられます。

- 日時/月曜〜土曜の登校してから下校まで(土曜は月1回程度) 週1回から
- 場所/用賀駅周辺の小学校
- 条件/謝礼有、交通費支給、学校生活サポーターに要登録
- 問合せ/世田谷区教育委員会事務局教育相談・特別支援教育課 担当 高橋
- TEL 5432・2747

# 講座・その他・募集

## 東 中高年のためのオンラインコミュニケーション教室 基本のおさらい&ミニユ実践

スマホしんどい、ついていけない、そもそもTとかデジタルとかよくわからないという方のための講座です。中高年対象ですが、不得手に性別や年齢はあまり関係ありません。誰にとっても身近な問題です。スマホ持参で、どうぞお気軽にご参加ください。

- 日時／3月6日(土) 14時～  
第1部 14時～14時40分  
オンラインの仕組みのおさらい  
第2部 14時50分～15時半  
Wi-Fiについてみかん

●場所／コミュニケーション教室  
つこの(世田谷区南島山6・12・12)

- 交通／千歳烏山駅徒歩5分
- 参加費／500円からお気持次第
- 条件／前日までにお申し込み
- 問合せ／実家なんとかし隊 担当 柴崎
- TEL 5969・8457  
info@nanatsunoko.com  
https://jikkantokashitai.com/

## ボランティア保険 新年度料金改定のお知らせ

2021年度のボランティア保険について一部改定となりますので、お知らせいたします。次年度(4月以降適用分)の加入手続きの際はご注意ください。

- 変更内容／  
①Aプラン(基本コース)の保険料の引き上げ  
【現行】 300円  
【変更後】 350円

②基本コースAプラン以外の補償金額変更  
※詳細はお問合せください。  
※新型コロナウイルスの補償については、2021年度も引き続き補償可能となります。

- 問合せ／世田谷ボランティア協会  
TEL 5712・5101

## 東 もっと語ろう不登校 Part 254

これまで27年にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お誘い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

- 日時／3月6日(土) 14時～
- 場所／NPOフリースクール僕

## 電話相談のボランティアをしませんか (説明会ご案内)

電話相談のボランティアを募集します。2021年5月から始める研修について、説明会を開催いたします。「有終支援いのちの山彦電話」は開設して31年経ち、生きづらさを抱えている方、病気の不安に直面している方などの、この悩みに受け止め寄り添っていく活動をしています。

- 日時／4月18日(日) 14時～16時
- 場所／東京ボランティア・市民活動センター A会議室(新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階)
- 交通／飯田橋駅徒歩すぐ

ランチ(代田4・32・17)またはZOOM会議にて

- 交通／梅ヶ丘駅徒歩10分
- 条件／事前申し込み制
- 問合せ／世田谷こどもいのちのネットワーク第3分科会「もっと語ろう不登校」担当 高橋 090・3905・8124  
tsbtoru@yahoo.co.jp

- 参加費／15000円
- 研修期間／5月～10月(原則第1、第3日曜日)
- 申込み／締切は4月16日まで。電話FAXまたはメールで。電話FAXは留守番電話対応になるため、お名前と連絡先をお願いします。
- 問合せ／有終支援いのちの山彦 電話  
TEL 3842・5312  
FAX 3842・5312  
inodino.yamabiko@gmail.com  
https://inochi-no-yamabiko.jindofree.com

**東** 『NPO・市民活動のためのステップ・アップ講座』  
組織づくりのためのヒント／コツを学ぼう！  
これからの時代における市民活動のつながりを考える

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2020年4月に緊急事態宣言が出されました。感染拡大を防ぐため、これまでと異なる活動方法を余儀なくされ、5月末の宣言解除後も活動を再開できない団体も少なくありません。

2021年1月に2度目の緊急事態宣言が出され、活動へのモチベーションの低下、世代交代の困難さなど、中長期的に活動の継続が危ぶまれる事態も予想されます。そこで、今回は新しいコミュニケーションのあり方を研究・実践している呉哲煥さんを進行役に迎え、コロナ禍での取り組みやオンラインの活用方法に焦点をあて、事例紹介や意見交換を行うことを通じて、新しい市民活動団体同士のつながりやコミュニケーションづくりについて考えます。申し込み等の詳細はホームページをご覧ください。

●日時・内容／  
第1回：3月6日(水)14時～16時半  
『コロナ禍での課題や取組を振り返ってみよう』

第2回：3月14日(日)14時～16時半

『これからの市民活動団体同士のつながりを考えてみよう』

●場所／生活工房ワークショップ  
ブルームA (世田谷区太子堂4-1-1 キヤロットタワー4階)

●交通／三軒茶屋駅徒歩すぐ

●参加費／各回1000円

●申込み／ホームページをご覧ください

●問合せ／公益財団法人せたがや文化財団生活工房

TEL 5432-1543  
info@setagaya-dcnet  
https://www.setagaya-dcnet/program/507/

**東** 『NPO法人&市民活動団体対象』  
セミナー&個別相談会  
「コロナ禍での市民活動」それぞれの奮闘と創意工夫

世田谷ボランティア協会では、NPOや市民活動の運営について、どんな素朴な相談でもお受けするNPO&市民活動相談窓口があります。コロナ禍において、例年より4倍以上の相談がある中、これまで、それぞれの活動で対面を大事にしていた市民活動においては、迷いや戸惑い、また、活動を停止せざるを得なかった団体もありました。相談記録から、共通して見えてきたのは、団体内の活動者同士の価値観の違い。「活動再開への共通認識のズレ」、「団体内の意思疎通の難しさ」が見えてきました。

14時～16時

▽居場所づくり編「これならできる」を探そう

講師：小池 良実さん(岡さんのおいえTOMO)

【夜の部】ZOOM(定員16名) 19時～21時

▽コミュニケーション編「団体内のコミュニケーション不和を乗り越える」  
講師：西川 正さん(ハンズオン埼玉)

●場所／午後の部は世田谷ボランティアセンター、夜の部はウェビ会議ツール「ZOOM」を使用

●交通／三軒茶屋駅徒歩12分

●参加費／無料

●申込み／電話かメール。メールの場合、件名に「コロナ禍での市民活動・参加希望」とし、①氏名②所属③参加動機④個別相談の有無を記載してください。締切は3月18日(木)まで。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター 担当 大垣内

TEL 5712-5101  
ppo-0325@otagaisana.or.jp

【午後の部・対面開催(定員10名)】

●日時／3月25日(水)

●お待ちしております

## 世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

### ●「市民が主役」のボランティア活動の拠点●

- 世田谷ボランティアセンター 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5101 FAX (3410)3811
- 梅丘ボランティアビューロー 〒154-0022 梅丘1-8-9 TEL (3420)2520 FAX (3706)2854
- 代田ボランティアビューロー 〒155-0033 代田2-20-6 TEL (3419)4545 FAX (3412)3210
- 玉川ボランティアビューロー 〒158-0094 玉川2-1-15 TEL (3707)3528 FAX (3708)3058
- 砧ボランティアビューロー準備室 〒157-0066 成城6-3-10 TEL (6411)4007 FAX (6411)5888

### ●いのちを大切にすると「ふらっと」&「with」です●

- ケアセンター「ふらっと」 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5105 FAX (3410)3813
- ケアセンター「with」 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋1F TEL (6805)4715 FAX (6805)4718

### ●くらしを紡ぎ、わかちあう「結」と「連」●

- ケア相談センター結(ゆい) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (5433)2830 FAX (6383)2156
- ケアステーション連(れん) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6805)4716 FAX (6805)4718

### ●障がいにとまなう「困った!」を話せるところ●

- 地域障害者相談支援センター ぽーとせたがや 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6804)0405

### ●でんわだから、はなせるネ! 18さいまでのこどもせんようでんわ●

- せたがやチャイルドライン こどもせんようでんわ TEL (3412)4747 0120-99-7777(フリーダイヤル)  
\*事務局は世田谷ボランティアセンターにあります

## 拠点は今… 今月のおススメ!

### ◆センター&ビューローより

ボランティアセンターは、3/25(水)にNPO法人&市民活動団体対象にセミナー&個別相談会を開催します。詳細はP11をご覧ください。ぜひご参加ください!

### ◆ふらっと& withより

いつもなら、みんなと梅まつりに散策だったことを思い出した2月。今年こそは「さ・く・ら」をめぐる時がもてますように。小さな私たちの願いです。

### ◆結・連より

介助を必要としている人がいます! 世田谷を走り回っています。ヘルパー募集継続中です!

### ◆チャイルドラインより

受験シーズン、いろいろな気持ちをかかえた子どもたちもいるのではないかと思います。話をしたくなったら、チャイルドラインに電話やチャットをしてみてくださいね。

編  
集  
後  
記

■いよいよ春到来の3月。下旬にもなれば桜が咲いている頃でしょう。皆でお花見と言いたいところですが、まだまだ自粛する必要があります。今年もボランティアセンター近くの公園で、ゆっくり桜をめぐることにします。

■東日本大震災から10年が経ちました。私は、当時海外にいて、直接地震を経験することはありませんでした。自分ができるボランティアとして、その土地の名産品をネットで買ったりして応援していきます。(こ)

- 発行  
社会福祉法人  
世田谷ボランティア協会  
〒154-0002  
世田谷区下馬2-20-14  
TEL 03-5712-5101  
FAX 03-3410-3811
- E-MAIL  
setabora@otagaisama.or.jp
- ホームページ  
<https://www.otagaisama.or.jp/>
- 発行人  
横山 康博

